

つながる防災隊

No.27

発行：令和8年7月20日
発行人：四日市市地区防災組織連絡協議会
会長 高田 英明

目次

1. 会長あいさつ 1P
2. 各地区での取り組み 2P
3. 防災情報 4P

今回は、各地区の防災への取り組みを中心にご紹介します。

令和8年度四日市市地区防災組織連絡協議会 会長あいさつ

四日市市地区防災組織連絡協議会 会長 高田 英明

令和8年6月3日（水）に開催を予定していた令和8年度四日市市地区防災組織連絡協議会総会は、台風第6号の影響により中止し、書面決議により総会の議決を得まして、全会一致で承認されました。

令和8年度は、防災訓練や避難所開設訓練の充実を図るとともに、新たに「防災啓発部会」を設置し、防災啓発活動を推進して地域防災の活性化につなげていきます。

昨年9月12日に四日市市で発生した大雨災害をはじめ、全国各地で災害が発生している現状を踏まえ、地域での防災力の強化がますます重要となっています。私たちは、住民一人ひとりが支え合い、安全な暮らしを守るために力を尽くしてまいりますので、今後とも地区防災組織連絡協議会をよろしくお願いいたします。

防災行政無線は いつ鳴るの？



防災行政無線とは

自治体が災害時や緊急時に屋外スピーカーなどを通じて、住民へ重要な情報を伝えるための無線通信システムです。

防災行政無線が鳴るとき

次のような情報をお知らせするために鳴ります。



避難情報
(警戒レベル3高齢者等避難、警戒レベル4避難指示等)



国民保護情報
(ミサイルの飛来、大規模テロ等)



緊急地震速報
(震度4以上)



レベル5特別警報

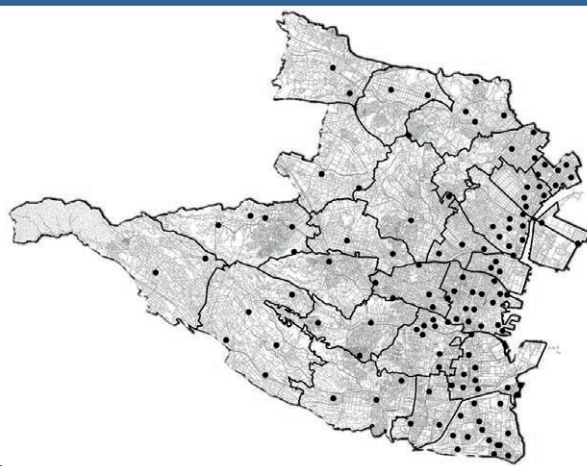


津波警報・大津波警報

サイレン音を伴う場合があります

防災行政無線は、より効果的に緊迫感が伝わるようにしているため、サイレン音を伴う場合があります。びっくりすると思いますが、別途、メールや四日市市Sアラート等でも通知しますので、それでも確認してください。

防災行政無線 配置図 (市内121か所)



情報の受け取り方法 (防災行政無線以外でもお知らせします)



メールで受け取る
防災・気象情報をメールで配信します。

四日市市安全安心防災メール



四日市市Sアラートで受け取る。
詳細は5ページ参照

継続的な防災意識、継続的な防災訓練

下野地区防災協議会 会長 中川 武司

下野地区では、継続的な訓練を通じて住民の防災意識を高める啓発活動に注力しています。令和 7 年度も、多角的な視点から以下の活動を実施しました。

6 月 7 日（土）の「防災@にしあさけ 2025」では、西朝明中学校にて避難所運営ゲーム（HUG）や炊き出し体験を行い、世代間交流を図りました。9 月 14 日（日）には地区市民センターで対策本部の立ち上げやデジタル無線機による情報伝達訓練を実施し、組織的な対応力を確認。11 月 15 日（土）の浜松市への視察研修では、27 名が参加し「顔の見える関係」を構築しました。さらに 2 月 15 日（日）の救命講習では 24 名が AED 操作等を習得しました。



防災@にしあさけ



下野地区防災訓練



視察研修



救命講習

防災訓練は、参加者が入れ替わるからこそ、同じ内容を「継続」することに意義があります。繰り返し実施することで、より多くの住民が共通の知識と意識を持ち、災害時に助け合える「共助」の基盤を強固なものにしていきます。

DX を活用して新しい災害時の連絡手段を考える～防災訓練

神前地区自主防災協議会 減災アドバイザー 平尾 光男

神前地区では、毎年 10 月の第 2 日曜日を「神前防災の日」と決めて防災訓練を実施しています。一昨年までは各自治会から選出された「災害対策本部員」を中心に【災害対策本部】を立ち上げて、各町からの情報を集めていました。しかし、発災時に参集できるのかという声が多く、昨年度は情報伝達訓練を無線・携帯電話そして SNS ツール（LINEWORKS）それぞれで検証しました。神前地区では、DX 推進協議会が LINEWORKS を各種団体役員を中心に推進していますが、自主防災協議会の役員・委員もすべて参加しました。

防災訓練当日は、市民センターに市の緊急分隊員・センター職員が災害対策本部を立ち上げて各自治会からの状況を館長に報告、その後センターからの指示・情報が各自治会に伝達されました。LINEWORKS では、トークに文章だけでなく画像・動画が送られてきて、瞬時に地域内の様子を共有できる事を確認、発災時には効果的に情報伝達ができる事がわかりました。被災状況で電源消失時の運用には課題が残りますが、衛星通信の普及もあり、これからの連絡ツールとしては十分使えると思っています。今後も DX を防災に効果的に活用していきたいと考えています。



各自治会では様々な訓練が実施されました（LINE WORKS の画像）



災害対策本部訓練
（市民センター 2 階）

浜田の防災訓練

浜田地区自主防災組織連絡協議会 会長 山路 和良

浜田地区では毎年 11 月に港中学校生徒全員と住民と一緒に防災訓練をしています。訓練は 3 つあります。一つ目は「逃げる訓練」です。一番の心配である南海トラフ大地震が発生したときには、津波から西方へ避難することを徹底して啓発しています。親戚や知人の家、他地区の学校や避難所など、あらかじめ家族が避難する「MY避難所」を決めておき、家族はそれぞれがそこを目指してそこに集合します。二つ目は「助ける訓練」です。倒れた建物から住民を助け、手当をして一緒に逃げる訓練です。自衛隊や消防からもノウハウを教わります。三つめは「避難生活体験訓練」です。応急トイレや段ボールベッドを組み立てたり、炊き出しをしたりして、避難所でどう助け合うか体験する訓練です。一昨年からは、スマホに入れた二次元コードを使っての受付体験もしています。

こうした訓練や日ごろの活動を基に、去年は「浜田地区防災計画」を作りました。これからも、先進的な事例を研究し取り入れて、みんなで助かる「被災者ゼロのまちづくり」を進めていきます。



浜田地区防災訓練

浜田地区防災計画内マップ

塩浜地区防災活動の充実化を目指して

塩浜地区防災協議会 副会長 中村 正司

塩浜地区防災協議会は、21 自治会の自治会長・防災隊長と関係団体・企業の皆さんの約 50 名で組織され、防災活動の充実化を目指して活動しています。

特に、塩浜地区では南海トラフ大地震による津波到来が心配されるため、地震・津波から自分自身の命を守ることを目的に年に一度、地域での一斉避難訓練、小・中学校合同の避難訓練を実施しています。さらには、小学校、中学校の皆さんを対象に防災授業を企画し、起震車による地震体験、炊き出し訓練、南海トラフ地震発生時の心構え、避難所開設訓練等の体験型授業を実施しています。

また、地域住民の皆さんの防災意識高揚を目的に、地区文化祭開催時に防災活動の紹介や、防災協議会メンバーを対象に各地の防災設備を訪問する視察研修を実施し、防災活動の充実化を図っています。

「きっと いつか来る、南海トラフ大地震」を想定した防災活動の継続と住民一人一人の防災意識の高揚・充実化が必要と考えています。



南中学校への模擬避難訓練



小・中学校合同避難訓練
(塩浜中学校屋上)



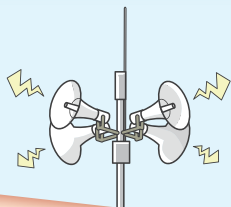
塩浜中学校防災授業



防災研修
(アウアプラザながら)



避難場所と避難所の違い、知っていますか??



危険な場所にいる時や、自宅が危険な場合



緊急的な避難

避難場所

Evacuation Site

災害から命を守るために
緊急的に避難する
場所や施設

していきんきゅうひなんばしよ
指定緊急避難場所



学校の校舎
など



つなみひなん
津波避難ビル



公共施設や
マンションなど



きんきゅうひなんじよ
緊急避難所



集会所や
公民館など



一定期間滞在

避難所

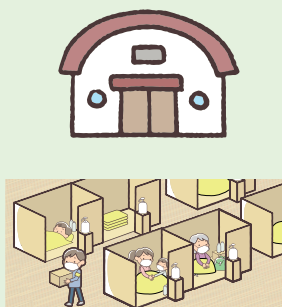
Evacuation Shelter

自宅に被害があった方が
一定期間、生活する施設

していひなんじよ
指定避難所



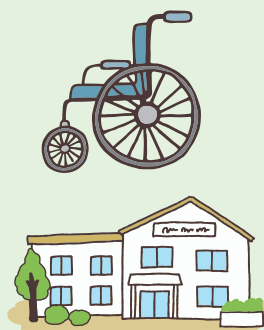
学校の
体育館など



ふくしひなんじよ
福祉避難所



特別養護
老人ホームなど



災害によっては、体育館などの**いつもの避難所**が**危険**かもしれません！

2011年に発生した東日本大震災において、岩手県釜石市にあった「鵜住居(うのすまい)地区防災センター」は、津波から緊急的に逃げる「**避難場所**」ではありませんでした。しかし、避難訓練でも利用する地域の「**避難所**」であったため、地震直後に推定200人を超える方が避難し、結果的に多くの方が津波によって亡くなりました。

このように、緊急的に避難する「**避難場所**」と一定期間生活する「**避難所**」は違います。**災害に応じた適切な「避難場所」を事前に確認しておきましょう。**



被災した鵜住居地区防災センター

写真提供: 釜石市役所

※「避難場所」と「避難所」を兼ねた施設もあります。避難しようと思っている場所を確認しておきましょう。

四日市市緊急告知ラジオについて

緊急告知ラジオとは？

電源がオフの状態でも緊急時には電源が自動的に入り、全国瞬時警報システム（Jアラート）や四日市市に特化した災害・避難情報が高音量で流れます。

四日市市緊急告知ラジオの特長

- 緊急放送時は、非常灯が点滅し、照明のLEDが点灯します。
- 平常時は、FM/AMラジオとして使用できます。
- ACアダプターと乾電池の併用で、停電時にも対応可能です。
（停電時には自動的に乾電池に切り替わります。）
※乾電池のみでの使用期間は、待機状態で約4日間です。
- 受信状況や動作確認のため、毎週月曜日午後5時30分～試験放送を実施します。
※電源が自動的に入り、試験放送が通常音量で流れます。



購入補助制度があります

制度や手続きに関してのお問い合わせは、
四日市市役所 危機管理課まで！

☎：059-354-8119

◆詳しくは防災情報HPでもご確認いただけます。

<https://bousai2.city.yokkaichi.mie.jp/infor-gathering/ig-01/emergency-radio/>



⚠ 旧ラジオについてご注意ください

- ◆旧ラジオの緊急放送は令和4年3月末で終了していますが、通常のラジオとして使用できます。
- ◆不要となった場合は、返却していただく必要はございませんので、各ご家庭で処分してください。



四日市市Sアラート

市の防災行政無線（同報系）の
放送内容がスマートフォンに直接届く！
インターネットに繋がる場所であれば
全国どこにいても登録地区の情報が届きます！

※端末の位置情報は取得しません。

音声でも
文字でも
確認できる！



アプリをダウンロード！

Apple の場合



Android の場合



※Apple、Appleロゴ、iPhone、およびiPadは米国その他の国で登録されたApple Inc.の商標です。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。
※Android、Google Play、Google PlayロゴはGoogle LLCの商標または登録商標です。

ARアプリで今すぐ確認！ あなたの家の浸水リスク

AR防災学習アプリ『ARLook（あるっく）』を
ダウンロードしてあなたの家やよく訪れる場所の
浸水リスクを確認してみませんか？



Apple の場合



Android の場合



あるっく
ARLook ってなに？

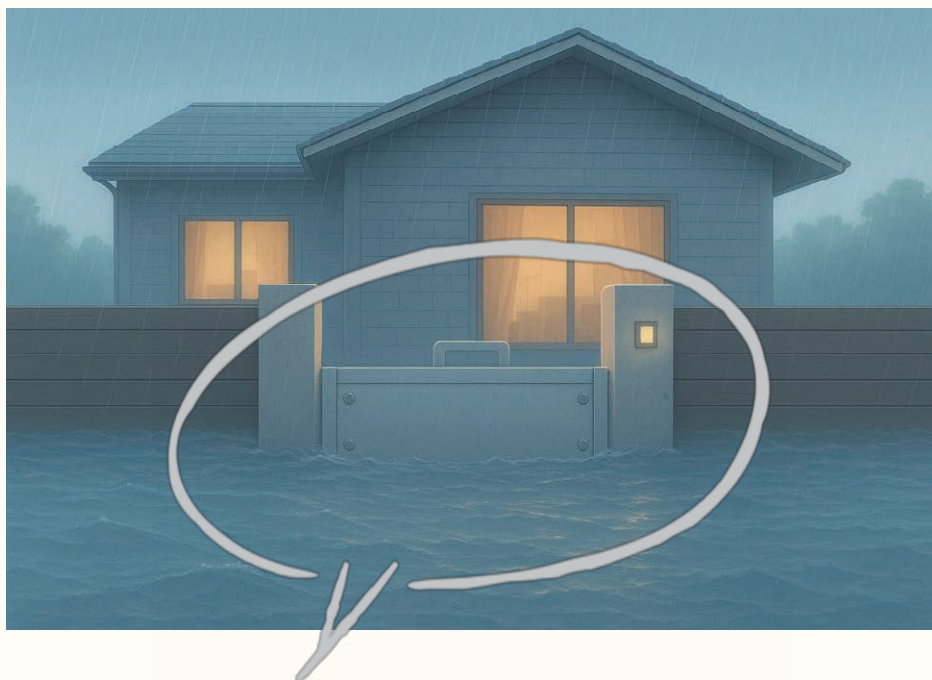
スマホなどのカメラをかざして
地域を「歩いて」「見る」ことで
AR（拡張現実）技術により表示される
近くの避難所や現在地の浸水深などを見ることができるアプリです。



\ 水害からあなたの家を守りませんか？ /

止水板設置工事・購入に要する 費用の1/2を補助

上限
50万円



■対象

市内に所在する住宅、
店舗、事業所等の所有
者又は使用者



詳細はHPを
ご確認ください

止水板とは・・・

大雨や洪水による浸水を防ぐために、建物等の出入口などに取り付けられる設備です。工事を伴うものから、比較的簡易に設置できるものまで、さまざまな種類があります。

工事による設置例



購入による設置例



下記までお気軽にご相談ください！

申請窓口・お問い合わせ先

四日市市 危機管理課

☎:059-354-8119

〒510-8601 四日市市諏訪町1番5号

✉:kikikanri@city.yokkaichi.mie.jp